

# 内海ITU事務総局長、ジュネーブ便り(2001年11~12月)



## ◎内海総局長から

11月、12月の私のスケジュールからもお分かりのように、世界は、9月11日の事件にもかかわらず、どんどん動いています。9月11日以降は、どこへ行っても、一切日本人がいません。

かつては、どこへいっても日本人が群れをなしてて、なんとなく眉をひそめられたのですが、あまりの変わりように、やはり日本人は異星人だと言われても仕方がないのかなと思います。禁足令がでているそうですが、そんなことを言って世界へ出て行かないことの言い訳に使っているように聞こえます。

そんな中で、世界情報通信サミット開催のためのワークショップに、アスキーの西さんが、快くボストンから駆けつけてくれたことに、感謝と尊敬の念に絶えません。

## ◎11~12月の事務総局長の主な動向

11月12~16日 ITUテレコムアフリカ

(ヨハネスバーグ、南アフリカ)

情報通信機器の展示とフォーラムで構成され、4年ごとに開催されるITUテレコムアフリカが南アフリカで開催されました。28カ国から200以上の企業が出席し、100カ国以上から1万5,000人以上が入場する盛況なイベントとなりました。また、アフリカ諸国を中心に40人の閣僚が出席したこともあり、会場のいたるところでトップレベルの会談が行われていました。フォーラムでは、アフリカ諸国の通信政策やインフラ整備状況などについて議論されましたが、特に、アフリカ諸国から選抜された学生が出席するYouth Forumでは、アフリカ大陸の発展のためにICTをどのように生かすべきかを議論しました。Youth Forumでは、Mbeki南アフリカ大統領も出席して、若者に対してICTを発展のためのチャンスとしてどう行動を起こすことを励起していました。

今回は、ICTを活用してアフリカを発展させようとする熱意が伝わるイベントとなりました。



ムベキ大統領およびアフリカの若者と。

11月14日 シーメンス社およびアルカテル社との覚書締結

ITUでは、途上国の人材開発を中心に支援するプロジェクト“センター・オブ・エクセラנס(CoE)”を実施しています。今回の覚書で、CoEプロジェクトの実施にあたり、シーメンス社およびアルカテル社がアフリカ諸国、アラブ諸国、ラテンアメリカ諸国、カリブ諸国で有しているネットワーク設備または施設を利用し協力することとなりました。

11月15日 ケーブル & ワイヤレス(C&W)社との覚書締結

ITUとC&Wによる人材開発に関する協力は、10年の歴史があります。今回の覚書で、ITUがコンサルトをしつつ、引き続きC&Wが電気通信に関する遠隔教育の場を提供していくとともに、ITUが行う遠隔教育プロジェクトにLDC諸国の学生が参加できるよう奨学金を供与することとなりました。

11月26~30日 電気通信標準アドバイザリーグループ  
(TSAG、ジュネーブ)

ITU電気通信標準化局の主要な活動や財政事項について議論するITU電気通信標準化アドバイザリーグループが開催されました。今回は、新たなシステムや技術の標準化について、ITUが柔軟に対応できるよう、民間セクター等メンバーから要請があれば、その度ごとにタスクフォースを立ち上げて迅速に対応していくことが決まりました。従来までは、タスクフォースの立ち上げには全会一致のコンセンサスが必要でしたが、今回、民間セクター等メンバーからの要請だけでタスクフォースを立ち上げることが可能となりました。

今回の決定で、民間セクター等メンバーは、新たに民間フォーラムが立ち上げずとも、ITUという枠組みを生かして柔軟に対応できるものと期待しています。

11月30日 ITUワールドテレコム2003に関するジュネーブ州  
政府との合意文書署名式 (ジュネーブ)

2003年10月12日から18日にかけてジュネーブにおいてITUワールドテレコムを開催します。ITUワールドテレコムは、産業界および政府の双方が注目する電気通信に関する世界唯一の展示会およびフォーラムです。前回の1999年の際には、1,100以上の企業が出席し、20万人が入場しました。世界情報通信社会サミットの直前でもあるITUワールドテレコム2003の成功に向けて、開催国であるジュネーブ州政府とITUとの協力について合意文書を締結しました。

12月3~5日 グローバル規制体シンポジウム (ジュネーブ)

世界各国の電気通信規制体の間の意見交換および協調を促進するため、昨年に統一グローバル規制体シンポジウムを開催しました。今回は、効果的な規制をテーマに、各国での規制状況などが議論され、効果的な規制のためには、効率、透明性およびユーザーの考慮が重要であるとの共通認識ができました。

また、昨年、各規制体の直接対話を促すために作成されたWebサイト “G-Rex” の内容を、WTDC-02に入力することを想定して改善していくことにしました。

12月5~6日 世界情報社会サミットワークショップ  
(ジュネーブ)

2003年（スイス）および2005年（チュニジア）に開催される世界情報社会サミット（WSIS）に向けて、サミットの意義・目的およびテーマ等についてブレイン・ストーミングとして自由闊達な意見交換を行うワークショップが、スイス連邦通信庁の主催で行われました。関連国際機関や有識者など60名が出席し、日本からは西MIT客員教授が出席されました。WSISは、デジタル・ディバイドを中心課題としつつも、セキュリティ、コンテンツ、教育、インフラ、アプリケーション等の個別課題も検討すべきであるなど多くのアイデアがまとめられました。

12月6~7日 多言語ドメインネームに関するシンポジウム  
(ジュネーブ)

現在、インターネット・ドメインネームの多言語化が進みつつあります。その現状と問題点を認識することを目的に、ITUとWIPOが共催でシンポジウムを開催しました。ITUは技術的課題、政策的課題を、WIPOは知的財産権・紛争処理について紹介しました。ITUセッションにおいて日本からは堀田博文JPRS取締役および加藤幹之ICANN理事がプレゼンテーションを行い、その簡潔明快な説明振りには参加者から賞賛の声があがりました。ドメインネームの多言語化は、日本、韓国、シンガポールなどアジア地域での検討が進んでおり、今後とも日本の貢献を期待しています。